

第1章

「原爆の子の像」と折り鶴<sup>9</sup>

〈コラム〉 佐々木補子さんの母校に「のぼり平和資料室」 60

第2章

二転三転した折り鶴をめぐる市の方針 61

〈コラム〉 自作の折り鶴を携えて広島にやってくるアメリカの大統領 82

第3章

「永久保存」から「活用」へ方針転換 83

〈コラム〉 2番目の被爆地・長崎に集まる折り鶴はどうなっている？ 98

第4章

官民一体で始まった折り鶴再生紙の開発 99

〈コラム〉 折り鶴再生紙を作るのに欠かせない大事な工程 116

第5章

不可能を可能にした試行錯誤 117

〈コラム〉 折り鶴の「お焚き上げ」って何？ 132

第6章

広がる「昇華」の取り組み 133

〈コラム〉 ヒロシマ発「折り鶴再生紙」の原点となった手すき再生紙 150

第7章

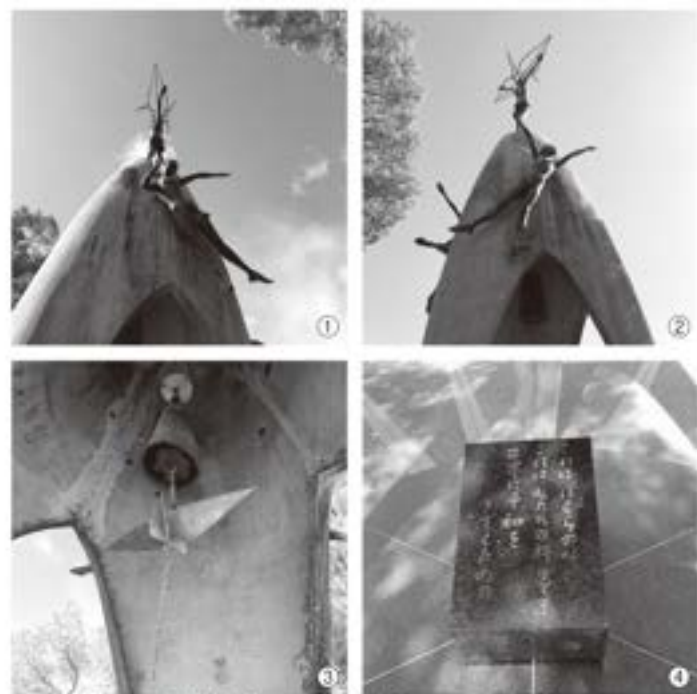
それぞれの思いと形 151

エピソード 180

巻末付録

折り鶴活用の珍しい取り組み 186





①②全金属製の折り鶴を捧げ持つ少女の立像が載るドーム状の台座の側面、向かって右側には少女の、左側には少年の像が着ているが、この2体は明るい未来と希望を象徴している。③ドームの内部には鐘と全金属製の折り鶴が吊るされている。④鐘の真下には御影石。公募で選ばれた碑文が刻まれている。

るとともに、世界に平和を呼びかけることを目的として建立されたのである。

「原爆の子の像」には、いつの頃からか、たくさん折り鶴が捧げられるようになった。像が完成した年の8月には、すでに、その台座には数多くの千羽鶴が捧げられ始めていたという記録もある。

また、現在、像に寄せられる折り鶴の多くは修学旅行生が持参したものだが、広島を訪れる全国の小・中学校・高校の修学旅行の児童や生徒が折り鶴を持参するようになったのは、一説によると、1963（昭和38）年からだという。

修学旅行生に限らず、折り鶴は、国内外からの観光客が携えることもあるし、広島市役所や平和記念資料館宛に送られてきたものを職員が代わって捧げることもある。

送られてくる鶴の中には、海外からのものもある。

日本でも植子さんのことを書いた本は少なくないが、海外でも、例えば、

## 折り鶴再生紙が できるまで



折り鶴は、鶴を連ねるために使用された糸や糸を留めるためのビーズなどが取り除かれた状態で製紙工場に運ばれる。



折り鶴をパルパー（巨大ミキサー）に投入する。



パルパーの中で水と一緒に回転させて、折り鶴をほぐして古紙パルプを製造する。



一般的な紙の原料になるパルプと、①の古紙パルプを適度な配合で混ぜ合わせ、紙を作る機械で形を作って乾燥させる。



ロール状の折り鶴再生紙が完成。



使いやすい大きさにカットして品質をチェックする。

上の工程は木野川紙業のオリジナル折り鶴再生紙「平和おりひめ」ができるまで。  
資料提供：木野川紙業株式会社

鶴再生紙ができるのか。

「ここをこう変えればいい」と理論的に答えを導くのは、比較的簡単だった。

例えば、①の工程で古紙としての折り鶴を投入するのは、一般的な再生紙の製造と同じだが、一般的な再生紙の場合は、この工程で、もとの紙の姿が見えなくなるまで古紙を混ぜて、混ぜて、細かくほぐして古紙パルプを作る。ちなみに、折り鶴再生紙の試作の初期段階でのねずみ色の紙は、こうした方法で作られていた。

しかし、目指す折り鶴再生紙は、ベースとなる紙にカラフルな折り紙の破片を散りばめたものだ。

つまり、折り紙の破片を残す必要がある。

そのためには、攪拌しすぎないことが大切になってくる。古紙パルプの色が黒っぽくなるのを避けるためにも、攪拌のしすぎに注意しなくてはならないのだ。

違う色の絵の具を混ぜたときを思い浮かべてみよう。

例えば、赤と黄色を混ぜればオレンジ、青と黄色なら緑、というように、2色く